

東京で長崎一ツ！と叫ぶ塾





塾長 黒沢 永紀

■ 塾長コメント ■

「東京から見えてくる長崎」をベースに、長崎の PR を基本活動とした「東京で長崎一ッ！と叫ぶ塾」（以下「叫ぶ塾」）の活動も 2 年目を迎え、前年おこなった活動内容をベースに継続活動しました。

伝習所始まって以来の、長崎出身でもなければ長崎に在住経験もない塾長だったので、無事務まったかはわかりませんが、自分なりにできることを行ってこられたのではないかと思います。

最初に長崎を訪れてから約 16 年。特に昨年は市内のたくさんの産業遺産が世界遺産に登録されるという快挙の年であり、長崎へ通うきっかけから現在まで、軍艦島に深く関わって来た私にとっては、とても嬉しい年でもありました。

しかし、メディアが取り上げるのは話題性がある期間だけ。これからこそ、産業遺産を含めて、長崎を発信していく必要性を感じます。

この 2 年、塾を通して、長崎の街、事柄、そして人により深く関わることができたことにとても感謝しています。

今年度で正式な塾の活動は終わりますが、今後は卒業塾として、ウェブサイトの運営や

「産業遺産見学ツアー」を継続していきたいと考えています。また、塾としての活動とは別に、個人的な活動としても、興味尽きせぬ長崎の発信は、今後も継続して行っていただければと考えていますので、あわせてご支援いただけましたら幸いです。

■ 塾の目的 ■

「叫ぶ塾」の最大の目的は、より深い長崎愛を持ってもらうことと、長崎の PR です。

塾生の約半数は、長崎の出身者、そして残りが長崎外の出身者で構成されています。

長崎出身の塾生には、この塾に参加することで、改めて故郷である長崎を深く知り、感じてもらえる場になればと思いました。また、長崎以外の出身の塾生には、長崎をより正しく深く理解し、感じてもらえる場となればと思いました。

そして、塾長である私はメディア制作に携わっているので、そのノウハウを生かして、塾生の成果を、目に見える長崎の PR にしようと考えました。

■ 塾の研究・活動内容 ■

「叫ぶ塾」の目的を達成するための塾の具体的な活動は、大きく分けて 2 つです。

1 つは、塾生各自が興味ある長崎に関するテーマを決め、それを研究・調査や実践・実行して、年度末に報告する「長崎レポート」です。塾生各自の活動に委ねたのは、東京で活動する多くの人たちが仕事に時間をとられ、共同でなにかをすることが極めて困難だと判断したこと。同時に、一人で長崎と向かい合ってレポートにまとめることで、しっかりと自分の長崎を認識してもらえと思ったからです。

もう 1 つは市内の産業遺産を巡る「産業遺産見学ツアー」の開催です。軍艦島をはじめとした市内の多くの産業遺産は、世界遺産登録を目前に控えて、今にわかに脚光を浴びています。産業遺産の見学という事自体新しい体験であるのに加えて、従来長崎の観光名所としてそれほど取り上げられてこなかった産業遺産を体験することで、新しい長崎を体験して欲しいと思いました。

■ 塾活動の成果 ■

第 1 の活動である「長崎レポート」は、昨年に引き続き提出していただいた塾生もいれば、今年度から参加されて、あらたに提出された方もいらっしゃいます。いずれも「外から見た長崎」をテーマにしたレポートで、長崎に対する新しい視点の数々だと実感します。

なお、これら塾生のレポートは、昨年度制作したウェブサイト「長崎、なんでんかんでん」にアップし、長崎に興味がある人に広く見てもらえるようにしていきます。年度内に全てをアップすることは無理ですが、4月以降、暫時アップできればと考えています。



(サイト『長崎、なんでんかんでん』の表紙)

第 2 の活動である「産業遺産見学ツアー」は、平成 27 年 11 月 22 日(日)と 23 日(月・祝)に行ないました。塾長である私が、

長年にわたり軍艦島関連の書籍や映像作品を多数発表していることから、その得意分野を生かして、軍艦島非公開エリアと、軍艦島の雛形だった中ノ島の見学で、産業遺産を通して、長崎を体感してもらい、同時に PR をしようという試みです。

見学ツアーには昨年度と同様、約 20 人が参加し、今年度は長崎出身以外の参加が目立ちました。

在京長崎人の塾生は、近くて遠かった故郷の新しい顔を体感されたことと思います。また長崎出身以外の塾生は、昨年同様メディア関係者を中心に構成しましたが、これはまぎれもなく、見学ツアーを何らかの形で発信していただくのが目的です。



(軍艦島非公開エリアの見学の様子)

昨年度は、スポーツ新聞での連載や、オール読物での特集、そして NHK の番組での紹介など、メディアでの成果がありました。今年度は、今のところは特に目立った成果は上がっていません。

来年度も卒業塾として、「産業遺産見学ツアー」は継続していきたいと考えていますが、今後は、ゲームクリエイターや写真家、イベントやプランナーなど、より強力なメディア関係者をメンバーとし、より強く発信して行ければと考えています。

東京で長崎一ツ！と叫ぶ塾 活動記録		
日 時	場 所	内 容
平成 27 年		
5 月 13 日 (水)	長崎県勤労福祉会館	長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回 塾会議
6 月 26 日 (金)	赤坂ダグアウト	定例会 第 1 回
8 月 28 日 (金)	赤坂ダグアウト	定例会 第 2 回
10 月 23 日 (金)	長崎市メルカつきまちホール	長崎伝習所「塾」中間発表
11 月 22 日 (日) 11 月 23 日 (月・祝)	軍艦島、高島、中ノ島	軍艦島と長崎産業遺産再発見ツアー
平成 28 年		
2 月 21 日 (日)	ワインバースペード	在京長崎人懇親会 with 自治体プレゼン
3 月 21 日 (月・休)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり 調査内容パネルの展示、クイズなどを実施

※上記以外に塾生が各自の興味があるテーマを自ら調査・研究及び実践・実行した

活動1 塾生各自の自主活動

■概要■

昨年と同様、「叫ぶ塾」の塾生が、各自興味のある長崎のテーマを自ら調査・研究および実践・実行し、それを年度末にレポートとして提出しました。

レポートは、広くたくさんの方が閲覧できるウェブサイト「長崎、なんでんかんでん」に掲載し、長崎のPRに貢献します。

■各塾生レポート・ダイジェスト■

(1) 東京の長崎～続編

レポート：藤馬 寛剛

昨年に引き続き、東京にある長崎探索の散歩をレポートしていただいた藤馬さんは、もともと東龍倶楽部のメンバーです。今年はそれを生かした東龍倶楽部の東京での活動をはじめ、前回とは違った長崎を堪能できるお店の紹介等、昨年度のレポートとあわせて、一段と充実しました。



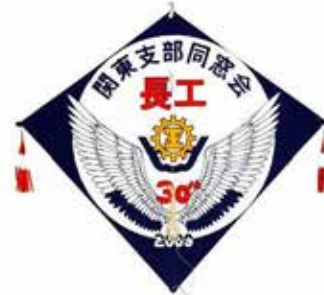
(東龍倶楽部の演舞)

長崎のアンテナショップが極めて少ない東京で、長崎を体感することは難しく、これらの情報は、「東京で長崎ーッ！」を感じることができる貴重なものと言えるでしょう。

(2) 子どもの頃の遊び

レポート：前田 利夫

前回、戦艦武蔵のレポートを提出いただいた前田さんからは、今回は「子どものころの遊び」と題して、ハタ揚げやケン独楽など、長崎および九州ならではの、子どもの頃の遊びを紹介いただきました。



(学校のハタ)

関東では凧というハタの文化は、長崎ならではのもの。1,000 キロ離れると、遊びも違うんだと実感します。

(3) 長崎へ行きたかった！

レポート：小坂 恭子

今年度、初めて塾へ参加された小坂さんは、産業遺産ツアーへも参加する予定だったものの、予定が合わず、参加できませんでした。過去に一度も長崎へ行ったことがないので、楽しみにしていたそうですが、その行けなかった思いを、長崎への膨らむ妄想と混ぜ合わせて、「勝手に想像する長崎」をコミック仕立



てで、作品にしてくれました。

長崎に行ったことがない人が、長崎をどう思っているかを知る、貴重なレポートだと思います。

(4) 東京に長崎がある

レポート：開田 有紀子

藤馬さんとはまた別の視点で、東京にある長崎を探訪した散歩録を提出いただきました。



(東京に残る長崎の地名)

上野にある「長崎の火」の碑の話や、東京にある長崎という地名の由来、そして池之端の三菱史料館の見学の様子など、東京と長崎の意外な繋がりの深さを知るレポートです。

(5) 高島と伊王島

レポート：下山 敦子

昨年、軍艦島と中ノ島のレポートを提出いただいた下山さんからは、今年度は高島と伊



(高島の「軍艦島が見える丘」からの眺望)

王島を提出いただきました。

同じ世界遺産に登録されながら、軍艦島との差を露呈する高島。また南欧風ビーチで復活を果たした、元炭鉱の島の伊王島。離島コンシェルジュの下山さんによる、ルポ風の現地レポートです。

そのほか、まだ提出はいただいているけれど、レポートを準備してくださっている塾生の方もいらっしゃいます。

■ レポート外の活動 ■

また、レポートという形ではない活動も行ないました。

(6) V・ファーレン長崎 アウェイ戦での楽しみ方の実践

西村 瑞穂

昨年度、V・ファーレン長崎のアウェイ戦での楽しみ方のレポートを提出いただいた西村さんは、そのレポートの実践として、東京で開催されるアウェイ戦を実際に観戦するツアーを企画しました。



(味の素スタジアムでの東京ヴェルディ戦)

まずは、V・ファーレン長崎のアウェイ戦がどのようなものを体感し、やがてじげもん料理の展開や、アウェイ戦をいかに盛り上げるかを考える布石になれば、ということです。

塾生の参加は少なかったですが、今後も観戦ツアーは続けて欲しいと思います。

(7)麻布十番で長崎ーッ！と叫ぶパーティー

久松 絵理

昨年度、塾の主催で行った長崎人と長崎をこよなく愛する人たちでのパーティー「麻布十番で長崎ーッ！と叫ぶパーティー」の第2回は、前回企画と長崎料理の提供で参加した塾生の久松さん主催で行われました。

司会進行は前回同様、島原出身のアナウンサー、中村直美さん。そしてバイキングスタイルで並んだ食事は、久松さんプロデュースのじげもん料理と中村さんにご用意いただいた五島の魚。そして今年は、宝雲亭さんの一口餃子やチリンチリンアイスが並び、昨年同様、長崎づくしの料理に、参加者はみんな大喜びでした。



(長崎麦みそのとり料理は美味)

昨年はパーティーの中盤から長崎の様々なことを紹介するプレゼンショーを行いました。どなたも長崎の話に花が咲き、全く聞く雰囲気ではなかったので、今年度は市役所の方に参加いただき、冒頭でのPRタイムを設けました。東京事務所の「叫ぶ塾」担当の益山さんをはじめ、五島や南島原の方々によるプレゼンタイムでした。

なお、今回も昨年度に引き続き、沢山のご協賛をいただき、感謝しています。



(長崎のPRをする東京事務所の益山さん)

歓談のあとは抽選会。文明堂総本店様からの桐箱入り特製カステラや軍艦島コンシェルジュ様からの軍艦島上陸&軍艦島デジタルミュージアムのペアチケット2組というご協賛。そのほか塾生で元くんち塾の高山さん及びくんち塾の方々からは、数々のくんち関連のグッズなど、盛りだくさんの抽選会でした。



(文明堂総本店様からの桐箱セットの授与)

■成果

昨年度からナビゲーターを務めていただいている中村直美さんの繋がり、五島市や南島原市の方々が多く参加されたパーティーとなったので、長崎市に限らず、長崎全体の交流会としての効果も高かったのではないかと思います。

今後、麻布十番でのパーティーは定期的に行っていければと考えています。塾の本来の目的である、塾終了後の事業化にむけての第一歩を踏み出したともいえます。



(長崎港と麻布十番の夜景が合体したパーティーのチラシ)

活動 2 軍艦島と長崎産業遺産見学ツアー

■概要

塾生各自の活動とは別に、軍艦島の非公開エリアと市内の産業遺産を巡る見学ツアーを昨年度に引き続き開催しました。

塾長である私が長年にわたって軍艦島を映像、書籍、ウェブ、アプリ等あらゆるメディアを使って伝導してきた経験を生かし、塾生に、産業遺産を通して見る新しい長崎を体感してもらうのが目的です。

■見学会レポート

平成 27 年 11 月 22 日(日)と 11 月 23 日(月・祝)で実施。

23 日は軍艦島の非公開エリアと高島を、24 日は中ノ島炭鉱跡と小菅修船場跡を見学。昨年同様 2 日間とも天候に恵まれ、両日ともけが人もなく、無事終了することができました。

(1) 軍艦島非公開エリア見学ツアー

塾生 17 人で実施。内訳は、昨年度は長崎出身者と長崎外出身者で約半々でしたが、今年度は、長崎外出身者が多い割合でした。長崎出身者には、近くて遠かった軍艦島を体感することで、故郷がもつ素晴らしい遺産を再認識してもらえたと思います。また、長崎外出身者は、映像制作およびメディア関係者を中心に構成しました。これは、上陸体験後に何らかの発信をしてもらうことを前提とした選択でした。



(小中学校の前にて参加者全員で記念撮影)

見学時間は約 2 時間半。小中学校からスタートして炭鉱施設を通過し、一般見学コースの先端まで行ったあと折り返し、その後は見学許可が出る範囲での住宅棟エリアの見学です。昨年度は住宅棟の中まで入れたのですが、世界遺産登録後は立ち入れなくなったので、当時の生活の様子を話すことができなかったのが残念です。

(2) 中ノ島炭鉱跡見学

中ノ島は軍艦島に最も近い島で、軍艦島よりも早くから炭鉱として開発されていました。規模は小さいながらも、軍艦島同様、人工の護岸で島の周囲をかため、人工地盤の上に炭鉱施設と住宅を建てて採業していた島です。



(中ノ島の見学の様子)

その操業は明治時代のわずか数年でしたが、現在でも当時の豎坑跡をはじめとした炭鉱施設が残存します。世界遺産申請のタイトルは『明治日本の産業革命遺産』。明治時代のものがほとんどない軍艦島より、むしろ世界遺産にふさわしい島かもしれません。

中ノ島炭鉱は、かれこれ 10 年以上前から取材をしていて、その産業遺産としての素晴らしい価値とは裏腹に、ほとんど取り上げられないことがないので、昨年に引き続き、今回も行くことにしました。

3 塾の活動を終えるにあたって

昨年度と 2 年連続で活動させていただいた「叫ぶ塾」でしたが、活動を通して、いろいろな意味で勉強になりました。

■良かった点

塾長という立場になって、初めて見えてくるものも多く、これまで漠然と見ていた長崎を、しっかりとした意識をもって見るできるようになったと思います。

また、在京の長崎の方々との交流を通して、今後、東京で長崎をどう叫んでいけばいいのかも、漠然とではありますが、見えてきた気がします。

今後は、この感覚を元に、さらに在京での長崎の発信に寄与していければと思っています。

■悪かった点

各自の自主性に任せすぎた塾だったと反省しています。

本来、塾生各自が自分でテーマを決めて、苦労しながらもまとめていただけた時に、長崎が血となり肉となると思っての活動方針でしたが、レポートをまとめたり、自主的に活動をおこしたりするのが苦手な方もいらっしゃいます。

そういった方を、いわばおいてきぼりにしてしまったような形での活動になってしまったことは、反省しています。

■展望

今後は卒業塾として存続させ、願わくばビジネス化を視野に入れたサイトの充実、産業遺産見学ツアーを続行し、より発信力のある人たちに参加いただいて、軍艦島をはじめとした長崎の産業遺産を、より多くの人たちに知ってもらえるようにしたいと考えています。

世界でも稀に見る貴重な都市、長崎。その長崎に関わる仕事に参加できたことに、改めて感謝すると同時に、今後も PR 発信を中心に、長崎の発展と繁栄に、微力ながら参加させていただきたいと思っています。

東京で長崎一ツ！と叫ぶ塾

塾長	黒沢 永紀				
1	久松 絵理	21	笠原 慎也	41	平川 規子
2	杉浦 美德	22	田村 耕一郎	42	和栗 由美子
3	西村 瑞穂	23	上奥 まいこ	43	藤原 青児
4	田中 麻紀	24	中村 朱美	44	
5	藤馬 寛剛	25	犬尾 公	45	
6	前田 利夫	26	石川 雅章	46	
7	高山 美枝子	27	竹生 和子	47	
8	下山 敦子	28	開田 有紀子	48	
9	藤田 茂	29	千島 絵里香	49	
10	田尾 正行	30	寺島 裕之	50	
11	酒井 透	31	小坂 恭子	51	
12	田村 由樹	32	福田 和貴	52	
13	辻川 智子	33	長谷川 京子	53	
14	柏原 久美子	34	佐藤 和男	54	
15	中西 朋	35	佐藤 展子	55	
16	中村 奈美	36	小島 健一	56	
17	竹田 之	37	関口 勇	57	
18	古川 泰裕	38	関口 万梨枝	58	
19	山崎 尚	39	武生 壮史	59	
20	伊崎 忍	40	安達 紘子	事務局員	東京事務所 益山 広基